

■概要■

- ・明治31 (1898) 年、松本武一郎が銀座1丁目で蓄音機とレコードの輸入販売を開始。
- ・明治40 (1907) 年、日本で最初の蓄音機とレコードの製造会社、日米蓄音器株式会社が設立。

三光堂 (蠟管、平圓盤、出張録音、ライロホン・スタークトン)

2022年9月更新

		備考
[1900年代]	YM2-M2559◎ [三光堂の吹込]	扱っている曲目を種類別に列記。型番情報は記載されていない。
[1905] (明38)	YM2-M2319 (*) 蓄音器用蠟管音譜表 [明治38年]	(*) 国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 (紙媒体は利用不可) 蠟管はG号大形、P号小形の2種類で販売。 型番情報なく、部門別に曲名が記載されている。
1905 (明38)	YM2-M2261◎ 平圓盤發音器曲名表 明治38年7月1日改正	【英国グラモフォン社の日本出張録音盤目録】 「甲ノ部」「乙ノ部」「丙ノ部」の3枚。 「戦時税賦課の為38年7月1日改正」 「英国倫敦グラモホーン製造会社平圓盤東洋一手発売元 三光堂本店」と記載あり。 ※その他関連資料 (本館書庫) 【請求記号：Y93-M4546】大聲蓄音器平圓盤發音器定價表 (三光堂, 1905.7) *明治38年7月改正とあり。(当該目録と同時期の刊行) *扱っているのは平圓盤 (明治期のディスク式レコード)、蠟管 (シリンダー) の蓄音器。
1907 (明40)	YM2-M2267◎ 蓄音器説明附定價表歌目録	【米国コロムビア社の出張録音盤目録】 収録内容は平圓盤 (明治期のディスク式レコード) の他、蠟管 (シリンダー) を含む。
1911 (明44)	YM2-L98◎ 獨逸國ライロホーン會社製造starkton両面新音譜目録.	【独ライロホーン・ウエルケ社の日本出張録音盤目録】 レーベルはライロホーン (旗印) とスタクトーン (象印) を収録。 ※発売番号の確認は、下記開架資料をご利用ください。 【『近代庶民生活誌. 第8巻』請求記号：GB411-144】 pp.349-370に当該目録が翻刻されています。 解説・総説「明治時代の出張録音レコード/岡田則夫」 →ドイツ・ライロフオンの頁 (pp.501-502)

■ 概要 ■

- ・版元の十字屋楽器店は「銀座十字屋」の前身。明治期から輸入物レコード等を扱っていた老舗の販売店。
- ・当時日本蓄音器商會の特約店だったと思われる。
- ・収録の「パイオニヤレコード」を製造していた「日本楽器製造」はヤマハの前身。

《参考文献》（【 】は当館請求記号）

- ・【DL731-L7】ヤマハ草創譜：洋楽事始から昭和中期までの70年余をふりかえる：1885-1959

メモ：

- ・日本蓄音器商會が作成した総目録は、「ニッポノホン【鷲印】、イーグル、オリエント [日蓄]」を参照。

ニッポノホン 鷲印 総目録（十字屋楽器店）

2022年3月時点

		備考
1925 (大14)	YM2-85○ ワシ印レコード総目録 付・パイオニヤレコード	大正14年10月発売レコードまで

出版者不明 (ビクター)

メモ:
・「邦」「洋」は日本語の目録。内容が洋楽でも欧文のものは「その他」に記載。

2022年9月更新

	邦	洋	その他	備考
[191-] 明治～大正		YM2-75 ● 新版ビクター日本歌曲レコード目録 【米国ビクター社の出張録音盤目録】		出版者不明。 刊行年は1911（明治44年）以降と考えられる。 *明治44年の第二次出張録音の盤も収録しているため、この前後に発行されたと考えられる。 «参考文献» (【 】は当館請求記号) 【請求記号：GB411-144】『近代庶民生活誌. 第8巻』 「新版ビクター日本歌曲レコード目録」